

2025年5月16日(金)

## フラワームーン Flower moon

今月13日(火曜日)は満月でした。この季節になると草木が成長し様々な花が咲き乱れることから、北アメリカ大陸の先住民コマンチ族\*が5月の満月を"Flower moon"と名付けたと言われています。故あって、この夜は京都市内の鴨川の畔から Flower moon を眺めました。



七条付近の鴨川より

以前このブログで紹介した1月の「ウルフムーン」は、月と地球が最も接近した時期で通常より明るく大きく見えることから「スーパームーン」と呼ばれました。しかし、ここ3ヵ月は地球から最も遠い位置にあり、「マイクロムーン」と呼ばれています。アメリカ航空宇宙局 NASA によれば、月と地球の平均距離は38万4,400kmですが、今の時期は40万5,456kmも離れていることから月が小さく見える故に「マイクロムーン」という訳です。

また、日本では古より月を愛でる習慣があり、満月の翌日は、古典文学作品にも登場する「十六夜(いざよい)」です。30～40分程度と少し出が遅くなった月を「月がはずかしがっている」と見立て「いざよう」、つまり「ためらう」としたことによります。続く「十七夜」はさらに月の出が遅くなり、月の出を立てって待ち望んだことから「立待月(たちまちづき)」とも呼ばれます。また、今月は日の出前に火星、金星や土星が次々と欠けていく月に接近する時期でもあり、それを楽しむのも一興です。

なお、鴨川と言えば「納涼」も良く知られていますが、<sup>かわゆか</sup>今年の京都では日中の最高気温早くも28℃を越え、鴨川の河原では川床・納涼床の準備が整い、今月1日から営業が始まっています。

石飛 一吉

### 参考

\*北アメリカ先住民による月の命名には部族ごとに多種あり、アパッチ族は「葉が緑になる月」、クリーク族やチョクトー族では「マルベリームーン」、クリー族は「フロッグムーン」、アニシラベ族は「ブロッサムムーン」などと呼ぶ。

\*川床(かわゆか)…納涼床と同じく、足場を組んで作られた座敷。

川床(かわどこ)…川の上や川横の屋外に設けられた仮設の座敷。